

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%
保護者様： 20名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・法令上の基準は満たしているものの、多機能型から一体型事業所へと変更となり、児童発達支援と放課後等デイサービスが重複する時間帯は、職員数が限られてしまうことがある。
- ・児童発達支援と隣り合わせの為、時間帯によって隣の部屋の音が気になることがある。壁に吸音材を設置するなど、対応をしている。

○業務改善

- ・教室内ミーティングにて、職員で情報共有をしている。
- ・研修を受講する機会が設けている。

○適切な支援の提供

- ・子どもと保護者のニーズや課題を面談を通して把握・分析し、それを基に子どもと接してアセスメントをとり、個別支援計画を作成している。
- ・集団療育は、毎月療育テーマを決めて実施している。
- ・勤務体制の都合上、全体で業務前ミーティングを実施するのが難しい時があるが、合間に情報共有や振り返りなどを行うようにしている。
- 全体で業務前ミーティングを実施するのが難しいが、合間に情報共有や振り返りなどを行うようにしている。

○関係機関や保護者との連携

- ・学校との直接的な連携は少ないが、各学校のHPや保護者を通し、行事や下校時間等の確認を行っている。
- ・保護者とは面談時や送迎時に連携をとれている。

○保護者への説明責任等

- ・教室での様子や活動内容、課題への取り組みについて、サービス提供記録だけでなく、送迎時にフィードバックを行っている。
- ・ニュースレターやイベントのお知らせに関する手紙を配布し、活動予定等を発信している。

○非常時等の対応

- ・毎月災害・不審者対策を想定した避難訓練を実施し、子どもと職員の動きや理解度を確認している。
- ・食物アレルギーのある子どもについて、事務室内に掲示することで職員全員が把握し、おやつ提供や料理活動等で必ずダブルチェックを行うようにしている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・「活動スペースの広さ」や「わかりやすく構造化された環境か」の項目では8割以上の方に「はい」とご回答をいただいた。
- ・職員の配置について、「以前より人数が減ってしまったので心配。」とのご意見をいただいた、事業所の一体化に伴い、人員の変更もあったので、保護者の方にも変更が分かりやすいようにお伝えしていきたい。また、「送迎範囲を広げてほしい。」とのご意見もいただいたので検討していきたい。

○適切な支援の提供

- ・「子どもの特性に応じた専門的な支援が受けられているか」という問いに対し9割以上の方から「はい」とご回答いただいた。また「子どもの特性に合わせて対応してくれている。それぞれの課題に対して取り組み方を考えてくれている。」「活動のプログラムが固定化しないように工夫してくれている。」などのご意見をいただいた。

○保護者への説明等

- ・「子どもの状況」「育成の助言」「子どもと保護者の意思疎通」などの項目では9割以上の方に「はい」とのご回答をいただいた。また「子どもの特性を理解してくれているが、フィードバック時に当日の様子だけでなく、特性などに特化した話を聞けると嬉しい。」「入退室管理アプリを導入していただけるといい。」とのご意見をいただいたので、対応を検討していきたい。

○非常時等の対応

- ・「非常時マニュアル等の周知」「災害を想定した訓練の実施」「安全計画の周知」について、8割の方が「周知されている」「実施されている」との回答をいただけた。しかし、「わからない」との回答もあり、全ての方に周知できるようにしていく必要がある。

○満足度

- ・「安心して通所している」「通所を楽しみにしている」「支援に満足している」について、9割以上の方から「はい」という回答をいただき、満足度が高いことがうかがえた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・職員の配置を工夫し、学校送迎を増やしたり、通所自立支援等も行えるようにしていきたい。
- ・業務前ミーティングやフィードバックを行い、より子どもに関する情報共有や支援について充実を図っていく。
- ・教室整備や安全管理をより徹底していく。
- ・引き続き、子ども・保護者に満足していただけるような療育・支援を行っていけるよう、職員それぞれが支援の質をあげていく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・放課後等デイサービスと児童発達支援の一体型変更もあり、学校送迎の本数増や通所自立支援の実施に至らなかった。
- ・法人内の研修や職員間のミーティングを通し、支援の質の向上を行い、満足度の維持に繋がった。
- ・教室整備について、床の補修や吸音材の設置など行ったが、まだ改善する余地や必要性があるため、継続して対応する必要がある。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・前年度同様、児童発達支援の利用者が持ち上がりで放課後等デイサービスを利用していただけているので、保護者や利用者との関係性を構築しやす。職員間でも児童発達支援と放課後等デイサービスで細かく情報共有を行い、子どもの特性や課題などを把握し、支援につなげることができている。
- ・毎月の活動を工夫し、プログラムが固定化されないように工夫できている。また個々の特性に合わせた療育を行えるように工夫できている。
- ・保護者と利用当日に、子どもの様子を連絡帳や口頭でお伝えしている。最近のお子様の様子についてもすぐに共有し、課題に反映させることができている。保護者に寄り添い、お悩みやご相談を受けている。

○改善点

- ・利用者の登録状況やご希望に応じて、学校送迎や送迎範囲を広げられるよう検討していく必要がある。
- ・保護者会を開催することができなかったため、次年度は保護者会を開催していく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・送迎範囲の拡充に向けて、職員体制や利用登録の管理を行う。
- ・保護者会を企画実施し、保護者に向けた活動報告や非常時対応の周知を行う。

○1年間で取り組む具体策

- ・2026年度の登録調整時に、送迎範囲が拡大できるように登録調整を進める。児童発達支援と放課後等デイサービスのサービス提供時間の見直しを行い、職員が送迎対応を行える時間数を確保していく。
- ・4月中に年間の保護者会の開催スケジュールを設定する。保護者の方にも開催日や開催内容について聞き取りを行い、多くの方が参加し必要な情報を提供できるようにする。